

(ミニシンポジウム  
東京女子医科大学病院の地域医療連携の展開)-多職種  
での取り組み 医師の立場から-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 板橋, 道朗 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00032533">https://doi.org/10.20780/00032533</a>

## 東京女子医科大学病院の地域医療連携の展開 —医療連携・入退院支援部 入退院支援室 看護師の立場から—

藤井 淳子

(東京女子医科大学病院 医療連携・入退院支援部 師長)

入退院支援室の看護師長かつ家族支援専門看護師として、現在、当院で取り組んでいる入退院支援をお伝えします。当部門、医療連携・入退院支援部の目標は「多くの患者が当院の専門的かつ急性期医療を受けることができ、治療を終えた患者・家族が安心して地域に退院・転院ができる」ことを目指しています。この目標に向かい、現在、以下の取り組みを行っています。①入院前の外来・入退院支援センターでの入院時支援を行う、②入院後3日以内に患者の状況を把握し退院困難な要因をアセスメントする、③入退院支援が必要な患者さんに入院後7日以内に多職種カンファレンスを行う、④入退院支援を専任で行う看護師を病棟に配置、⑤各病棟の入退院支援リンクナースの育成です。これらを整備する中で軸としていることは「本人の選択ができる」、「本人・家族の心構えがもてる」支援です。大学病院に入院するということは、患者さんのみならず家族にとっても一大事なことです。患者さん・家族自身が、そして関わる病院の医療者や地域が「医療」と「生活」の両方の視点を共有し、入院前から退院後の生活を見据え、これからの生活の再構築をする心の準備ができる体制を目指しています。

## 東京女子医科大学病院の地域医療連携の展開 —多職種での取り組み 医師の立場から—

板橋 道朗

(東京女子医科大学病院 消化器・一般外科 教授)

東京女子医科大学病院は急性期医療をつかさどる大学病院であり、患者視点に立って、安全・安心な医療の実践と高度・先進な医療を提供することを基本理念にしています。2018年に院内組織を改組して医療連携・入退院支援部（以下、本支援部）を組織しました。本支援部は、入退院支援室、医療福祉相談室、地域連携室、ベッドコントロール室、クリニカルパス推進室の5室から構成されており、「院内外の医療者が患者さんの情報を共有してお互いの長所を活かし多方面から多職種でサポートする医療を提供する」ことを目的にしています。

地域から病院、そして地域に帰る患者の生活の質の向上を目指しつつ、地域医療機関および関係官公庁等との密接な連携を図ることも必要です。また、患者さんが安心して地域に戻るためには開業医の先生のみではなくリハビリテーション病院や訪問看護ステーションとの連携が求められます。本支援部の活動は、まさに多職種の有機的活動により支えられております。各職種がお互いの立場や活動を理解して患者さんの視点にたった医療の提供を地域の皆様と協力しながら作り上げていきたいと考えています。今後ともよろしくお願い申し上げます。